

◇ 風 間 行 男

○議長（清水満） 発言順位 1 番、議席番号 2 番、風間行男議員を指名します。風間行男議員。

〔2 番 風間行男 登壇〕

○2 番（風間行男） 2 番、風間行男です。通告に従い順次質問させていただきます。

まず、6 次産業についてお伺いいたします。町では 6 次産業化推進協議会を立ち上げ、4 年間研究開発され、6 次産業的発展に向けた提言が提出されました。進捗状況をお伺いいたします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは、6 次産業化推進協議会の提言についての進捗状況をお答えいたします。

飯綱町 6 次産業化推進協議会委員の皆様からご意見をお聞きしながら、平成 27 年度策定の飯綱町 6 次産業的発展に向けた提言に基づいた 6 次産業化事業を町は着実に進めているところでございます。

町の 6 次産業化は、1 つとして、農家収益を増やし基軸となる農業を持続可能なものにする。2 つとして、農業と他業種との有機的な連携を深めながら地域に利益を還元する仕組みを構築することを目指しています。

農業振興のための拠点施設の整備として、横手直売所「四季菜」の拡張、「農家レストラン日和」の建設などを行いました。また、町内直売所の戦略的連携として、町内直売所 3 か所における統合レジシステムの導入、生産履歴管理システムの導入などを行いました。

農畜産物のブランド化として、主要農産品等の販路拡大のための P R 活動、また農産物を基本に交流人口、関係人口の獲得を目指す「りんごの学校」の開催などを行ってまいりました。

提言書の中で 6 次産業化のけん引者となる組織の発足という提言がございます。町は、町内直売所や加工所の運営、都市での農産物の P R 販売など、町の 6 次産業化事業を持続的に推進し、また農業者が前向きになれるよう支援する組織を平成 32 年度には立ち上げられるよう、現

在研究を進めているところでございます。

また、農業と他業種の有機的な連携による地域への利益の還元という点では、飯綱町のブルムリーを使用した6次産業化の取組が、今週2つの地元のテレビ局のニュース番組で取り上げられました。1つ目の番組はブルムリーを使用したサンクゼールのシードル製造の取組。2つ目の番組はブルムリーを使用した地元のお店のスイーツ販売の取組です。農家はテレビ局のインタビューで8月中に収穫ができ、手が掛からず、加工用として出荷しても最低1キログラム200円になるりんごはありがたいと答えておりました。アップルミュージアムのりんごの並木にあったブルムリーの穂木を農家に配布をいたしまして、平成23年のブルムリーの集荷量が400キログラムであったものが、平成29年度は16トンと6年で40倍に増えております。農家にとっても地元企業にとっても、そして町にとっても良いような、三方良しの6次産業化の取組を今後も進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 今、進んでいる6次産業化をお伺いしましたが、私は施設規模が1万平米ぐらいの施設が必要だと思います。それと一番大切なのが集客しやすい場所。長野市からのお客さんが車で10分から15分の場所として考えるのが、JAながの共選所北側の場所が利便性も良く、集客しやすい環境だと思います。それに、施設規模にふさわしい土地の確保ができると思いますが、いかかでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 新しい道の駅的な大規模な直売所、そういうご提案だと思いますけれども、ただいまご提案の四ツ屋地区にあるJAさんの旧傘礼フルーツセンターの跡地ですが、そこについてはJAさんもお使いになる目的があるようで、とても全面積を貸すというようなことは、なかなか難しいという協議をした結果報告を受けています。また、あの地域でいつも引っ掛かるのは、埋蔵文化財の指定地域でございまして、既にJAさんの建物が建っておりますけれども、調査をしていない場合、それを壊して新しいものを造る場合にはコンクリートを剥いで埋

蔵文化の調査をするのが本来のシステムになっています。こういう話ですので、非常にその他の経費と時間も掛かるという状況の中にあります。

立地条件的には面白い、ご案内のとおり良い場所の1つだとの思いはありますけれども、そのような中で、後ほどの質問にもあるかもしれませんが、別の適地を県道長野荒瀬原線沿いに候補地を見つけて、議員の提案ぐらいの規模の用地を確保して、新たな施設を建設していたらと今検討しているところでございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、総合加工施設と今答弁ありましたように、4施設等がありますが、これを統合し、直売所併設で品揃え、雇用の促進、年間雇用、大型店舗にすることにより、より多くの集客が見込めると思います。夏休みには都会の親子が体験できる施設等を組み合わせながら、おやき、手打ちそば、餅つき、あられの食文化の継承などと思いますが、統合して建てられるお考えはありますでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 将来に向かったの計画ですので、私から基本的な考えを申し上げて、細部については担当課から申し上げたいと思います。

一応、今おっしゃるとおり、加工所と直売所と願わくば大きなトイレ施設、休憩施設、軽食ができるような道の駅的な構想を持ったエリアとして、適切な場所というのは今のところ三本松、福井団地の入口の周辺が非常に景観的にも、長野市から来ていただくお客様にも、また黒姫インター等々から長野市の善光寺さんなどに向かうルートの観光客の環境を考えても、また現在日量の交通量が1万2,000台を超えているという長野荒瀬原線ですので、その辺りが適地ではないかという私どもの考えで、地主さんには一応折衝をして一定のご快諾をいただいております。

今後、今の直売所、そして加工所等も含めて、どういうレイアウトをすれば良いのか、市場の調査も含めて少しコンサルに委託したいと思っています。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に施設の内容ですが、今まで6次産業化推進協議会の提言の中に、米に関する提案が餅の二文字だけしか見当たりませんでした。それで私は次の提案をいたします。

お飾り餅、あられ、米粉を使ったパン、おやきは特に人気が高く、盆には品不足のため手に入りませんでした。おはぎ、赤飯、黒飯などは冠婚葬祭用として利用できると思います。また、ふるさと納税返礼品、年末飾り物の予約注文などが望めます。製造部門に定年退職者や高齢者のノウハウを導入することで、若者に継承することができ、高齢者にとっては生きがいの場となると思います。さらに米農家はもち米の生産と所得の増加が望めますが、いかがでしょうか。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それでは答弁させていただきます。新しい加工所の基本につきましては、町内農家の受託加工を中心に考えておりまして、加工ニーズが高い品目を中心に計画をしてみたいと考えております。そして加工につきましては、決して果樹に限ったものではなくて、米もあり得ると考えております。今、議員からご提言のあったものについても、非常に働く人にとっても消費者にとっても、とても魅力的なものであると思いますので、検討させていただきたいと思っております。

今後、詳細につきましては、町は加工ニーズ調査などを実施した上で、町内の既存加工施設を勘案しながら、新たな加工所での加工品目について今後決定をしてみたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 今、いろいろと計画されているようですが、できるだけ早い立ち上げをお願いして次の質問に入らせていただきます。

老人クラブ活動費増額についてですが、老人クラブに高齢者地域支え合い支援事業補助金交付要綱で、友愛、健康づくり、子どもの見守り、サロン、介護予防活動、借上料、傷害保険料、入館料、お茶代、スポーツ用具の購入に県と町で活動費が支給されています。老人クラブ高齢

者支援支え合い事業補助金は、3分の2、50人以上4万4,000円、30人以上49名まで2万6,000円、この積算内容をお伺いいたします。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 答弁いたします。老人クラブの方々におかれましては、日頃から友愛活動や清掃活動等にご尽力いただいております。厚く御礼申し上げます。

それで、ご質問の県の要綱の中身ですが、県に一応確認いたしました。県では、要綱作成時に1人当たりいくらとか、活動内容の積上げでは算定していないということです。国も県も予算の範囲内で交付するという要綱に定めがありまして、積上げ数字ではなく、予算額にあった中で現在支給しているというところで、増額という話も県にお話ししたわけですが、増額はなかなか厳しいということです。老人クラブ自体の人数、組織も現在減っている状況で、現在の予算額を減らさないように担当としては頑張っているというお話をいただきました。以上です。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 4万4,000円、2万6,000円のこの交付金はいつ設定されたのでしょうか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 答弁いたします。県の担当からも、だいぶ前に設定したという話は受けておまして、交付要綱につきましては、これを見る限りですと平成19年3月30日に出されております。最終は27年4月1日になっていると見受けられます。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 27年度の改正内容をお伺いします。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 今、手元に行政報告書を持っていないわけですが、クラブ数が現在より1クラブ多かったと記憶してございます。それで、基準額につきましては現行どおりの

基準額で交付となっております。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、町の単位クラブの現状は年々解散され、クラブ数が減少してきています。その原因は、まず活動資金不足、面倒な報告書の作成、役員のなり手不足、ジェネレーションギャップなどが考えられます。

さらに貸切りバスの度重なる事故で、安全運行のために過酷な運行が見直され、国は再発防止策を盛り込んだ道路運送法の改正を16年12月に施行されました。そのことによって、バス料金が、値引き競争も無くなり適正になったと私は思っていますが、さらなる規制強化で県内では16業者が免許を返納しております。楽しみの視察研修など、単位クラブでは望めません。単位老人クラブの支援金として、現在は1人600円弱です。先ほど1人いくらという設定をしていないということですが、計算すると600円弱になります。バス、ワゴンの借上料は最低でも7万円は掛かります。1つの事業をするにも満たない補助金内容です。高齢者地域支え合い支援事業補助金は、今お伺いしたら見直しされていないということですが、この増額のお考えがあるかどうかをお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 今、個別の補助の増額というご質問でございますので、それについてすぐやるとかやらないとかというよりも、老人クラブ全体への補助というものについては、正直言って大きな流れとして減額することはあっても増額することはないという流れで来ている感じは強く持っております。また、単位老人クラブが、我が平出でも途中で役員のなり手がいないということで、老人クラブ自体が無くなってしまったという集落も数多く出てきております。

しかし、珍しく普光寺の老人クラブの総会だけは毎年招待が来て、お呼ばれをして、総会まで出席をさせていただいて決算書が出てくるわけでございます。正しくおっしゃるとおり、1年に2回の山ノ内の方の温泉での慰労会、あとゲートボールとかマレットゴルフ、あとは神社の清掃、草刈りのボランティア活動というようなものを大きな柱にして活動していらっしゃる

わけですけど、いろいろな大学を出てきて65、70、75歳になられた皆さんが一同に温泉へ行って、昼間からお酒を飲んで2泊3日で泊まってくるというのも楽しみではあるけれども、それでは僕は参加しないというような声、いわゆる多種多様な要望のある中での老人クラブのあり方というのが、非常に私は難しいと思います。

従って、決して老人の皆さんにはもう補助は出さないというのではなくて、町としては本当に人口の維持という意味でも、またいわゆる労働人口の維持をしていくという意味でも、なるべく長生きして大いに活躍してもらいたいという希望は強いものがありますので、どういう形での補助を申し上げていけば良いのか。単なる今年度1人当たり400円をプラスして1人1,000円の補助をするようにしましたというよりも、何か1つ生きがいを持って、地域のためになるし自分のためにもなるし、これやろうという事業に対して良い意味で手厚く支援をしていきたい。そういうような形での今後支援を考えていきたいと思っております。

間もなく5、6年もすると、団塊の世代の大人口がみんな75歳を超えてくる恐ろしいような時代が控えている中で、もっと根本的な医療や介護などの予算をどう確保してくかという問題と、だからもう老人クラブの補助はやめるというつまらない発想はいたしません。そういう介護へ金が掛からないためにも、元気なお年寄り、元気な年配者を維持、増やしていくには一体どういう支援をしていけば良いか。担当課や社協などと広く検討して手を打っていきたいと思っています。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に、町では町民優待券を発行していますが、町民からは喜ばれている反面、これは特定の町内企業の支援にならないかとの声もあります。リゾートスキー場、ゴルフ場は完全民営化されます。この優待券金額を単位老人クラブの育成のためにすることができないか。

自然豊かな飯綱町で高齢者が移住し、住んでみたい町、女性が住んでみたい町、人口減少に歯止めが掛かる政策に寄与できると思います。さらに、若者より高齢者の経済効果が望めます。今、町長の答弁のように飲み食いではないということは分かりますが、使途についてはある程

度規制緩和し、使いやすいものにして楽しい老後支援活動にしてはと思いますがいかがですか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 確かに良い予算のところを目を付けられたと思いますけれども、リゾートと温泉、観光施設等への支援というのは、違った意味での無料の優待券でございましたけれども、民間の企業に今度は経営が移っていくなれば、今までと同じようにやるか、または民間でも、私どもは最初からただでいいですよというような方針を出してくるかもしれませんけれど、それによって対応して考えていきたいと思っています。

そういうお金を単位老人クラブに向けたらどうかというお話ですが、本当に今の年配者がいったい何を望んで、どういう活動をしたいのかという思いをもう少し把握させていただいて、案外、生き生きサロンでお茶飲むから集まろうと言っても、集まってくるのは女性の人が多くて、ほとんど男性の方は顔が見えないというのは現実としてございます。しかし、福井団地等でパワリハの施設を入れたら非常に男性の方々も出席していただいて、そして一汗流した後、いろいろな皆さんとお茶を飲んだり、雑談をされたりという良い時間を持っておられます。これは、赤東の毛野辺りでもそういう話を聞いております。そういう意味では、そのような所への足の心配を申し上げていくようなことを制度化していくことなど、ともかく先ほど申しましたとおり、単に 10 ある単位クラブへ 5 万ずつプラスして 50 万円を余計に出しましょうというような支出の仕方は当面考えておりません。

○議長（清水満） 風間議員。

○2 番（風間行男） 次に参ります。きめ細かなバス停の設置についてですが、急速な高齢化、また運転免許返納者が増加する中で、今後公共交通の利用が増してくることが想定されます。飯綱町から長野市へのバス料金 200 円は、高齢者、免許返納者にとって大変喜ばれています。現在、高齢者の町内中心へのアクセスについては、デマンドバスの導入により利便性が向上しています。長野市平出線を利用して行く場合は、足腰の弱い高齢者が最寄りの駅に行くこと自体が困難な状況にあります。例えば、ガード下、栄町、坂上、四ツ屋、福井、福井団地、平出



は、長野市となれば利用者の増加が見込めます。そこで、運行业者に対し、町内における平出線のきめ細かな路線配置及び停留所の増設を要望すべきと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 実は、この10月1日を一応予定しているところですが、70歳以上の方については、長野電鉄の牟礼長野線、牟礼営業所から長野駅までは現在700円ですが、200円で行ける制度を発足いたします。

これは、長野市さんとの共同で、実はもう長野市は長野駅から牟礼線で来ると、最後の長野市関係のバス停は原池観音前というバス停があります。長野市の70歳以上の皆さんがそこで降りれば200円でございます。しかも、ICカードを持っていて乗る時にピッと押して、そして降りる時にピッと押す、キャッシュレスの制度でやっていました。これを見ていまして、お金の計算もいらないし、しかも200円というのは往復しても400円です。しなの鉄道は今、牟礼長野間が片道420円。それを思うと私どもも何とか対応できないかということで、企画課でかなり長野市の交通課と折衝して、なかなかすぐにOKというわけにもいかなかったわけですが、本当は30年4月、30年7月ぐらいからスタートをしたかったところですが、ようやく10月からそういう制度がスタートいたします。

従って、電車が都合の良い方はもちろん電車が良いわけですがけれども、坂上の方におかれては、どこで長野電鉄の長野線に乗っていただくかが非常に大事なところで、昔のようにバスが牛落しの方に上がってきてもらうようなバスのルートでしたら1番近いところがあるわけですが、今は福井団地を回って駅の方へ下りてくるルートになっていますから、そういう意味では細かなバス停の設定をして、なるべく乗りやすい環境を整えるという絶対ご提案のとおりだと思っておりますが、ただ、電鉄さんも国から補助をもらって動かしている長野牟礼線です。補助をもらっているところの延長を伸ばして、まだ赤字の幅を伸ばすようなバス停を増やしていくというのは、国は非常に良い顔をしないとなれば、もっと節約をする路線として維持をしていくようにしなさいという指導があるようですが、そこら辺をどういふふうに私どもも対応して

いくか、是非、利用促進を図る意味でも、できる限り議員のおっしゃるような方向で努力をしてみたいと思っています。

○議長（清水満） 補足を徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それでは、少し細かいところを補足させていただきたいと思いますが、今、町長から答弁あったとおりでございますけれども、必要に応じまして需要調査なども行いまして、必要があれば路線の変更をバス事業者に要望することも考えていきたいというところかと思えます。

なお、坂上や四ツ屋、福井、こういった所はバスが通っていないわけでございますけれども、牟礼線を利用して長野方面に行かれるということになりますと、バス停までの移動が必要となる。この移動手段としましては、時間帯によって難しい場合もあるわけですが、デマンドバスをご利用いただいて、行きは自宅から三本松バス停などに、また帰りは三本松バス停で降りていただいて自宅までの送迎を依頼していただくことも可能な状況でございますので、こういった利用もご検討していただけたらと思っております。よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 次に入ります。水田用水の水路整備補助金についてですが、今年度は平成4年以来の高温、水不足に見舞われ農作物の被害が出ております。改めて水の大切さ、自然界からの恵みのありがたさが身にしみているところです。

中山間地事業では、工事費の負担が多額になる場合は、何年も水路工事整備に時間が掛かるのでなかなか進まないのが現状です。本年度、水不足で稲が枯れる被害があった地区からですが、数年前から申請されている大門川排水路から集水路切替え工事ですが、町から31年度以降の検討と回答がありました。さらに、高坂からは田畑堰水門ゲート設置、排水溝改修、U字溝の取替え工事等で549万円となっておりますが、町単、県単での整備が早急に求められていると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 具体的に北川の大門川から上げるのと、高坂の田畑堰の話ですけれども、その他にも頭首工の改修等々の問題もあるわけですが、実は県の農地整備課と非常に親しく相談をしております。どうも三水地区の用水の改修があまりにも金額的にも大きくて目立つような雰囲気をしておりますけれども、決して牟礼地区の方に全然手を付けていないわけではなく、大門川についても去年に3,000万ぐらい掛けて用水の整備をしまし、霊仙寺湖の整備もいろいろ考えているわけですが、今のご提案のあったところについては、町単で対応しきれなかったのか。今、実は県単の事業というのはほとんど無くなりまして、県が国等々の補助を得ながらやるような事業にほとんどなっておりますので、昔みたいに県単事業があれば非常に動きが速かったわけですが、そこら辺も県と相談をしながら、ただいまご提案いただいた場所については個々の対応をしてみたいと思います。

私は、全体としては今回の水不足を思いますと、横手地区のパイプラインの関係もやはりじっくり考えなければいけないし、また排水路には結構水が流れているけれども、用水には水が上がってないという問題、また東黒川の上堰、中堰、下堰のあの3用水についても、いろいろな改修の問題もあるだろうし、これは中山間地や多目的利用の事業で全部地元でやってくださいというのはあまりにも無理な話で、やはり町がやるべきこと、県がやるべきことはしっかりやっていきたいと思っています。

○議長（清水満） 風間議員。

○2番（風間行男） 是非、よろしくお願ひしたいと思います。これで私の質問を終わります。

○議長（清水満） 風間議員、ご苦勞様でした。

これから暫時休憩に入りたいと思います。再開は9時55分にお願ひしたいと思います。